

常設展拡大企画

昭和のくらし 展

— 「住まい」の道具イロイロ—

令和2(2020)年1月4日(土)～5月17日(日)
新潟市北区郷土博物館

ごあいさつ

当館は、常設展示テーマを「阿賀北の大地と人々のくらし」として、この地域の歩みや文化を紹介しています。展示室には、考古・歴史・民俗・芸術の各分野の資料を展示していますが、「新潟市北区」を語り尽くせるものではありません。そのため、展示室で紹介しきれない収蔵資料を、テーマを設け、常設展拡大企画としてご紹介しています。

平成28(2016)年度から開催している本展では、収蔵資料の中から60～70年前ころまで使われていた昔の道具を展示し、その暮らしをご紹介しています。昨年度までに「食べる」「着る」をテーマに展示しましたので、本年度は「住まい」に関わる道具を展示します。

町場と農村部、また家ごとにも、家のづくり・暮らし方など、さまざまな違いがありますが、この地域に生きた人々が実際に使った道具たちから、ご来館の皆様が、現代との違いやその工夫を知るとともに、北区の昔の様子・歴史に興味を持つきっかけとなれば幸いです。奥の常設展示室にもさまざまな資料を展示していますので、併せてご覧ください。

令和2年1月

新潟市北区郷土博物館長

会期中の催し（申込不要、体験無料）

◆手織り体験と葛塚縞手織り機の実演 （毎月第2・4土曜 午後2～4時）

1月11日(土)・25日(土)
2月 8日(土)・22日(土)
3月14日(土)・28日(土)
4月11日(土)・25日(土)
5月 9日(土)

実演と体験講師：葛塚縞手織りの会

◆ふろしきで包んでみよう（会期中いつでも）

◆昔のおもちゃで遊ぼう（会期中いつでも）

◆天びん棒を担いでみよう（会期中いつでも）



ちぐらに入った赤ちゃんと
囲炉裏で寛ぐおじいさん

早通(北区)／昭和28(1953)年／植木克夫氏撮影

1 火に囲まれた暮らしの道具イロイロ

	展示資料名
1	炉縁
2	自在かぎ
3	鉄びん
4	五徳
5	火消しつぼ
6	灰ならし
7	火箸(ひばし)
8	障子板戸
9	むしろ
10	ちぐら
11	茶筆筒
12	真空管ラジオ
13	電灯
14	屏風
15	柱時計
16	吊りランプ
17	こたつ(置きごたつ)
18	火鉢
19	台十能
20	火箸(ひばし)
21	行火(あんか)
22	行火(あんか)
23	夜着(よぎ)
24	湯たんぼ(陶器製)
25	湯たんぼ(金属製)
26	洗面器
27	福島潟の潟端の農家(写真) (新鼻(北区)、昭和44年頃、「福島潟干拓地域 民俗緊急調査報告書 福島潟-1970-」所載)
28	土間(通路)の脇の囲炉裏(写真) (葛塚、昭和7年撮影、齋藤道哉氏所蔵)
29	電灯のある部屋(写真) (昭和32年、山口賢俊氏撮影)
30	ちぐらに入った赤ちゃんと囲炉裏で寛ぐおじい さん(写真)(早通(北区)、昭和28年、植木克夫氏撮影)
31	ちぐらの中の赤ちゃん(写真) (早通(北区)、昭和28年、植木克夫氏撮影)
32	こたつで家族団らん(イラスト) (月岡徳恵氏画)

電化製品が普及していなかった昭和30年代頃までは、家の至るところで火を使っていました。火は、調理・暖房・照明などさまざまな時に使われました。

燃料は、薪・炭・ワラ・石油・ガスなど…。自宅にガス井戸を掘って天然ガスを使った家もありました。ほかにも、農家ではハサ木の枝打ちしたもの、浜辺の村では秋から冬に浜に打ち上げられる流木や木片も貴重な燃料として利用しました。

火を使う暮らしは、火事の危険も多かったため、火を焚く場所には、火伏の神「荒神様(こうじんさま)」を祀る棚がありました。

子どもの仕事イロイロ

昔の子どもは、小学校に入学した頃から、家の仕事をよく手伝いました。登校前も下校後も、年齢に応じていろいろな手伝いをしました。手伝いをすることは当たり前のことで、自分たちの仕事だと思ってやりました。

◇ 子どもが担当した主な仕事

- ・家の出入り口、庭をほうきで掃く
- ・弟や妹の子守り
- ・飲用や風呂用に、井戸や川まで水汲み
- ・夕飯作りの手伝い(火の焚き付けなど)
- ・風呂の火を焚き、湯わかし
- ・自在鉤の竹の支柱拭き
(手が届く高さまでの煤取り)
- ・ランプのホヤ磨きと油注ぎ
- ・柱時計のゼンマイ巻き
- ・田畑の仕事の手伝い
(田植え・稲刈り・野菜の収穫)



子守りをする子ども
山口賢俊氏撮影

2 水回りの道具イロイロ

	展示資料名
33	風呂釜（五右衛門風呂・ふた付き）
34	風呂桶（木製・ふた付き）
35	風呂桶（銅製）
36	水桶
37	湯かき棒
38	踏み台（参考資料）
39	湯わかし
40	たらい
41	洗面器（アルマイト製）
42	風呂場（木の風呂桶とタイル貼りの床）（写真） （葛塚(北区)、昭和7年撮影、齋藤道哉氏所蔵）
43	五右衛門風呂に入る（イラスト）（月岡徳恵氏画）
44	赤ちゃんの入浴（イラスト）（月岡徳恵氏画）
45	和式便器
46	この便器があった家の男性用便所（写真） （葛塚(北区)、昭和7年撮影、齋藤道哉氏所蔵）
47	汲み取り式便所の木製便器（写真） （角海浜(西蒲区)、昭和50年、山口賢俊氏撮影）



風呂場（木の風呂桶とタイル貼りの床）
葛塚(北区)／昭和7(1932)年／齋藤道哉氏所蔵

◇ 昔のお風呂事情

約70年前まで、風呂は「どの家にも必ずあるもの」ではありませんでした。家に風呂があっても、沸かすのにはとても手間がかかりました。風呂に水をためるのに、井戸や川へ何度も水を汲みに行きました。ワラ・薪・ガスで火を燃やして沸かす時も、自動で適温にはならないので大変でした。そのため、今のように毎日風呂を沸かす習慣も、毎日入浴する習慣もありませんでした。

風呂が無い家では、銭湯や親戚の家の風呂を借りました。風呂がある家でも、手間を減らすため、数軒で順番に風呂を沸かし、その家の風呂に入りに行く「もらい風呂」をしました。風呂を沸かした家の子どもは「風呂に入りに来てくんなせ」と使いに回りました。

湯を早く沸かすには、風呂の水を最初からたくさん入れないで、沸いてからだんだん足すほうが燃料の節約になりました。夏には、朝から水を入れて水温を上げてから、夕方沸かすと燃料が節約できました。また、風呂に入る順番は、家の主人が最初に入ると決まっていました。

◇ 昔のトイレ事情

昔、トイレのことを便所・雪隠といいました。水洗ではなく、汲み取り式でした。

約60年前までは、トイレは家の中に無く、外にあった家もありました。夜、子ども1人で便所へ行くのはとても怖くて、「誰か一緒に行ってくれ」と頼んだものです。

トイレで使う紙は、専用の浅草紙(古紙を再生した灰色のゴワゴワした紙)もありましたが、使いやすい大きさに割いた新聞紙を、両手でよく揉み紙を柔らかくして使うこともありました。福島潟周辺の家では、紙の代わりに福島潟の藻を乾燥させて使っていたこともあったそうです。

昭和50年代前半(約40年前)になり、和式便器より洋式便器が普及するようになります。

3 住まいをきれいにする道具イロイロ

	展示資料名
48	はたき
49	座敷ぼうき
50	ちりとり (紙製、屋内用)
51	竹ぼうき
52	ちりとり (木製、屋外用)
53	バケツ
54	雑巾 (参考資料)
55	小屋に立てかけられた竹ぼうき (写真) (昭和50年8月、山口賢俊氏撮影)
56	電灯のカサにはたきをかける (イラスト) (月岡徳恵氏画)
57	座敷にほうきをかける (イラスト) (月岡徳恵氏画)
58	雑巾がけ (イラスト) (月岡徳恵氏画)

4 住まいには、ほかにもイロイロ

	展示資料名
59	ゆりかご
60	扇風機 (日立製作所製)
61	扇風機 (東芝製)
62	テレビ (日立製)
63	UHF コンバーター
64	電話機 (磁石式電話機)
65	電話機 (ダイヤル式電話機)
66	テレビのある部屋 (写真) (昭和38年8月、山口賢俊氏撮影)
67	テレビのある部屋 (写真) (昭和47年7月、山口賢俊氏撮影)
68	子守りをする子ども (写真) (昭和30年頃、山口賢俊氏撮影)

掃除用具として昔から使われてきたのは、ほうき・ちりとり・はたき・雑巾です。掃除機が普及する前、家の中の掃除は「まず、はたきをかけて棚や障子の埃を取り除いてから、板の間や畳をほうきで掃き、最後に水で絞った濡れ雑巾で拭き掃除をする」のが基本でした。

また、便所や風呂場はいつも綺麗にするよう心掛けました。「よく便所掃除をする女の子は大人になって綺麗になる」などといわれて、手伝いをさせられた子も多くいました。

道具を長く使うために手入れもしました。座敷ぼうきは、時々石鹼を溶かしたぬるま湯に浸け、洗うと同時に形を整えて干しました。はたきは、毎年暮れの大掃除後に作り直したので、そのための端切れは日頃から集めておきました。

5 体験コーナー

	体験コーナー展示資料名
69	綿切り (わたきり)
70	糸車
71	とけぐるま
72	とんぼ
73	ざくり
74	機 (はた)
75	綿の実を「綿」と「種」に分ける (写真)
76	綿から糸を作る (糸紡ぎ) (写真)
77	糸の長さをはかる (写真)
78	糸を藍で染める (写真)
79	糸束 (カセ) を糸枠に巻く (写真)
80	たて糸の長さや本数を整える (写真)
81	たて糸をチキリ棒に巻く (写真)
82	フェに糸を通す (写真)
83	オサに糸を通す (写真)
84	ヨコ糸をセットして織り始める (写真)

昭和のくらし展 - 「住まい」の道具イロイロ - では、以下の文献を参考にしました。

『豊栄市の民具』 豊栄市博物館 1978年

『豊栄市史 民俗編』1999年 『新潟市史 資料編10』1991年

『昔のくらしの道具事典』岩崎書店 2004年 『日本のくらしの知恵事典』岩崎書店 2008年

『イラストで見るモノのうつりかわり 日本の生活道具百科 2 住まう道具』河出書房新社 1998年

当館では、松浜・南浜・濁川地区の昔のくらしを知る道具や古文書などはありません。
ご寄贈いただける方は ご連絡をお願いいたします。

新潟市北区郷土博物館 電話025-386-1081